

大学生が架橋訓練を見学



訓練を見学する参加者



説明を聞く大学生

神奈川地本厚木募集案内所（所長 酒井 海尉）は、大学生3名に対し10月22日（木）、23日（金）、厚木市内の相模川において、第4施設群の自走架橋架設訓練見学を支援した。厚木募集案内所近郊には、座間駐屯地や厚木航空基地が所在しているが、訓練を見学できる機会がほとんどない為、大学生から「将来自衛官になりたいのでぜひ、見学したい」との声があった。22日の架設訓練は、約1時間の見学時間にもかかわらず、迅速に橋が架かっていくのを募集対象者は熱心に見学していた。翌日は第4施設群のご厚意により、完成された橋を徒歩で通行することができた。

その後、第4施設群（群長 武隈 陸佐）による訓練説明と9月の関東・東北豪雨及び東日本大震災時の災害派遣活動について説明を受けた。東日本大震災では寸断された河川への自走架橋の架設についての説明を受け、大学生は「訓練だけでなく、災害時に潮の満ち引き等の自然環境を考慮しながら冷静かつ迅速に架橋しることが凄い」「来年、入隊予定ですが施設科にも興味湧いてきました」と感想を述べていた。厚木募集案内所は、「機会がある度に募集対象者等に訓練を見学してもらい、部隊との架橋橋となるよう尽力していく」としている。

久里浜駐屯地創立記念行事で広報活動



説明の様子

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 大里 海佐）は、10月24日（土）、陸上自衛隊久里浜駐屯地「創立記念行事」において、広報活動を行った。

この行事は、駐屯地創立記念65周年にあたり実施されたもので、記念式典や通信機材を始めとする装備品展示、防衛大学校ドリル展示が行われ、大勢の来場者が訪れた。

地本ブースにおいては、海上自衛隊ミニ制服の試着を行い、広報官が制服について説明を交えながら写真撮影を支援した。来場者の多くは子ども連れのご家族であったが、将来の話として募集資料を提供する中、進路の一つとして自衛隊を考えているという来場者もあり、募集制度及びアンケート等を行い説明する広報官にも熱が入っていた。

横須賀地域事務所は「今後も機会を捉え、募集広報活動を積極的にを行い、自衛隊の活動に関する啓蒙を積極的に推進していく」としている。

オレンジのたすきに思いを込めて

1区セレモニー
終了後記念撮影

湘南地区1区スタート前

オレンジたすきを掛け
湘南を駆ける所員

神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 平 陸尉）は、10月25日（日）、子供虐待防止啓発活動を目的とした「第9回子供虐待防止オレンジリボンたすきリレー2015」に初めて参加した。

募集相談員で社会福祉法人児童養護施設の理事長を務める飯塚氏からイベントの話があり、所員は「できることを協力したい」との思いから、子供たちの明るい未来と子供虐待防止の願いを込め、湘南・都心・鎌倉三浦半島のそれぞれのコースをイベントの象徴である「オレンジのたすき」をつなぎ、晴天の秋空の中、横浜の歴史的名所である山下公園を目指し走った。また、ゴールの山下公園ではイベントの準備が朝早くから実施され、テントの設営などの支援も行った。参加者には、在日米軍司令官や警察・消防機関、地域の小中高校の学校長なども含まれており、良い交流の場となった。

平塚地域事務所では、「今後も与えられている任務や活動以外にも地域や社会に協力できる事を積極的に行っていきたい。」としている。